

# 夢童

菅波 茂

新春の夢を見た。「世界未来遺産」会議が笠岡市の飛島で開催されている夢である。

「世界未来遺産」とは簡潔に言えば「温故知新」である。歴史の叡智を学び、現代的意義を討議し、未来に向けて活用することである。真の教養とは過去の歴史から明日への教訓を得ることである。参加国は中央アジアからはモンゴル、西アジアからはトルコ、南西アジアからはインド、東南アジアからはタイ、そして東アジアからは日本である。それぞれにすばらしい歴史を持っている。

「何故に第二次世界大戦後の焼け跡から奇跡の経済復興ができたのか」そして「何故に幕末に欧米の植民地にならなかったのか」である。モンゴルは13世紀から15世紀にかけて世界最大のユーラシア帝国を建設した。オスマントルコは600年間の世界最長の統治の歴史がある。インドは21世紀の世界を支える役割と歴史がある。タイは1000年の独立を保っている政治先進国である。会議では教育、土木利水、交通、通信そして統治などがテーマである。混沌化する将来に有益な内容が具体化するのを楽しみである。

瀬戸内海は淀川から琵琶湖に通じている。一方、海外では中国に通じている。島国である日本の覇者は中国との貿易の利益を御朱印船の名のもとに独占。瀬戸内海では紀伊水道と豊後水道の潮流が交わる場所が飛島である。大潮の時に大飛島と小飛島の間には海が出現する。世界の啓典の民(ユダヤ教、キリスト教そしてイスラム教)は旧約聖書にあるモーゼに率いられたユダヤの民の出エジプト記を思い出す。映画「十戒」に見られるエジプトの王の軍勢に迫られたモーゼの眼前の紅海に海が出現して無事に脱出できる物語である。地中海、東の瀬戸内海」が答えである。歴史の覇者は交通の大動脈として現在ユネスコによって主宰されている世界遺産

## 「世界未来遺産」会議 in 飛島



飛島の砂洲 (笠岡市提供)

はハード中心からソフト面も重要視してきている。しかし、歴史が刻まれた石の文化が圧倒的に有利である。松浦ユネスコ前事務局長によって定期的に改修される石で新しい文化も対象となるようになった。世界遺産指定によりその文化を創造した集団に敬意が払われることができる。

岡山県国際貢献推進条例が2004年に石井知事によって制定された。国境を超える福祉である。岡山県の意志である。岡山県の基礎自治体が国境を超えてメッセージを発信する正統性の礎でもある。笠岡市は社会福祉協議会や商店街が中心となっており、東日本大震災の被災地である、ご縁の深い南三陸町を積極的に支援している。ほとぼるエネルギーである。「世界未来遺産」会議 in 飛島を可能にするエネルギーでもある。海、陸そして空の3つの道は過去、現在そして未来への道でもある。3つの道のある笠岡市から世界に「世界未来遺産」という新機軸のコンセプトが発信される新春の夢が正夢になることを祈りたい。(AMDAGグループ代表)